



きいむんの どろ〜ちゃいむにいへ - 第8回 - テーマ 種子取祭

ハイサイ&ハイタイ、みなさん！

食欲の秋ですね〜 冬の寒さにそなえ、いよいよ秋の野菜・果物の本格的な季節を迎えます。私たちの命を支える、おいしい作物においしい御飯…イネをはじめとする穀物の実りは、古代においては国の繁栄に直接影響を与え、私たちの先祖は、五穀豊穡（ごこくほうじょう）を願い穀物に関する様々な儀式を行ってきました。今回はそんな五穀豊穡にまつわる祭の一つ、種子取祭についてのレポートです。では、Here we go!

どんなお祭り？

「種子取祭」（タナドゥイ・タントゥイ）は、600年前頃から始まったとされ、粟・麦・米など穀物全般の豊饒を願い、9月・10月（旧暦）の吉日を選んで種子おろしをする行事です。かつては全島的に行われており、『琉球国由来記』巻一には、稲粿（いなもみ）を祭の前日に水に浸し、齋戒（さいかい；神聖な儀式に奉仕するために心身を清めること）した者が稲粿を蒔く、と記されています。また、火神（ヒヌカン）や御嶽（ウタキ）で神女たちが祈願を終えてあと、お供えものを皆でいただき（ウサンデー）、芸能が奉納されるなど、穀霊に対する強い信仰心を表すした祭りです。

※『竹富島文庫 I 種子取祭』P20 の画像。

竹富島の種子取祭

本島の祭りは、現在ではあまり行われていないようですが、1977年、国の重要無形民俗文化財に指定された竹富島の種子取祭（タニドゥル・タナドゥイ）は、奉納芸能の演目数の多さで有名。なんと！、お祭りは新暦10月・11月に巡り来る甲申（きのえさる）～癸巳（みずのとみ）の10日間に亘って行われます。今年は11月15～24日が祭り日にあたります。詳しくは竹富町役場へ各自お尋ね下さい。

この時期に竹富島へ行けそうなあなた、島の心地よい風に吹かれながらタナドゥイ見学はいかが！また、当館にある、種子取祭に関する資料をいくつかご紹介します。こちらもぜひご一読ください！

（沖縄資料担当K）

※『竹富島文庫 I 種子取祭』P20 の画像。

《参考文献》

- ①外間守善・波照間永吉編 『定本 琉球国由来記』角川書店 1997
- ②狩俣恵一 『竹富島文庫 I 種子取祭』NPO法人たきどうん 2004
- ③大塚勝久 『うつぐみの心 竹富島（たきどうん）大塚勝久写真集』琉球新報社 2005
- ④崎原恒新 『ハンドブック 沖縄の年中行事』（有）沖縄出版 1989